



予防、血糖管理を徹底

「二番目の早期発見は、
境界型から糖尿病になつて
しまつている人を、健康診
断などで素早く見つけるこ
と。この場合は医師の指導
の下、生活習慣改善などに
よる治療をすぐ開始し、長
期にわたつて血糖コントロ
ールを良好に保たなければ
ならない。早期の段階なら、
境界型や正常域に治る人も
いる」「
するネットワークをつくり
たいという考え方もある。糖
尿病の専門医、非専門医に
かかるわらず、血糖コントロ
ールを徹底してもらう必要
もあると思う」
「いずれにせよ、今はま
だ農民の間に、糖尿病を深
刻に受け止める認識が浸透
しているとは言いにくい。
のみんなから治療を促さ

「糖尿病で最も怖い合併症の予防も大きな柱になれるよう、県民全体が糖尿病予防の重要性を共通認識

糖尿病対策の重要性を強調す
県推進会議の笈田耕治副会長

四

県推進會議

笈田副会長に聞く

「糖尿病は今や、国民病は、ともいわれている。」

「国内の患者数は約八百八十万人、境界型（予備）予防が三本柱となる。まず軍）を含めると約千六百二十分人といわれ、人口の一割を大きく超えている。医療費抑制の意味からも糖尿病対策は急務。今回の対策会議設置が、日本医師会主導による全国的な動きなもの、危機感の表れといえ

病状の進行に沿つて発症予防、早期発見、合併症発症予防とは、境界型の人たちが糖尿病にならないようになります。空腹時血糖値が二〇〇(mg/dl)以上二六未満、またはブドウ糖負荷試験二時間値が一四〇以上二〇〇未満のグルーピーで、ここに該当していたら『まだ糖尿病』

診ていていたら「まだ糖尿病になつていなかから安

「一番目の早期発見は、
境界型から糖尿病になつて
しまつている人を、健康診
断などで素早く見つける」かかるべく、血糖コントロ

リックシンドロームの人た
ちがターゲットとなる。食
べ過ぎ、飲み過ぎ、運動不
足などの生活習慣を見直す
よう指導していく必要があ
る」

「二日目の早朝発見は、すらスッ、フレフとくつ
者さんへの啓発としてシン
ポジウムの開催を計画して
いる。住民健診などに当た
つては市町村と連携し、
きめ細かく患者さんを指導

心ではなく、『発症を食い止めなければならない』と強く意識してほしい。特に肥満、高血圧、高脂血症なども含めて、このメタボリックシンドロームに対する具体的な対応策について、人と同じく人工透析を始めた人は約一万人にも上つてゐる。

予備軍合め1620万人

糖尿病のまん延が国民的な問題になる中、医師、看護師、栄養士らでつくる県糖尿病対策推進会議（会長・松田尚武県医師会長）が十月に設置された。患者増加に歯止めをかけるため、地域でどのような活動を進めるのか、同会議の笈田耕治副会長（日本糖尿病学会評議員）に聞いた。

る。代表的な合併症は網膜症、腎症、神経障害で、ひどくなると網膜症は失明し、腎症は人工透析が必要になり、神経障害は足の切断に至る可能性がある。ただやつから見たら深刻な状態なのに、まだ大丈夫と高をくって治療に身が入らない患者さんが多い。実際に、糖尿病が原因で失明する人は国内で年間約三千人、同じく人工透析を始めた人は約一万人にも上つている」

「具体的には、どんな対策に取り組むのか。

「まだ検討段階だが、患者さんへの啓発としてシンポジウムの開催を計画している。住民健診などに当つている市町村と連携しきめ細かく患者さんを指導するネットワークをつくりたいという考え方もある。糖尿病の専門医、非専門医にかかるらず、血糖コントロールを徹底してもらう必要もあると思う」

「いずれにせよ、今はまだ県民の間に、糖尿病を深刻に受け止める認識が浸透しているとは言いにくい。境界型と分かつた段階で周りのみんなから治療を促されるような、県民全体が糖尿病予防の重要性を共通認識として持つ社会を目指し

Itakura